

第1回討委員会における主な意見等（概要）

社会受容性向上に向けた普及啓発が重要であり、常に県民や社会を巻き込みながら、一緒に考えることが重要

ロードマップに経済性という観点を入れた方がよい

2030年というゴールを考えた時には、かなり現実的なロードマップを目指すべき

定置式の水素ステーションを整備し、FCVだけでなく、燃料電池バスも含めて活用していただきたい

時間軸に応じて、FCVの普及割合をもう少し明確にすることと、P2Gの部分と生活に密着したモビリティの部分をもどのように分けて書いていくのかがポイント

あくまでもいろいろなエネルギーの中のひとつとして、水素を使うということは絶対に必要であり、幅広く考えていくべき

全国に先んじて山梨で取り組むことの意義というのが非常に大事

県と大学が中心となって取り組んでいる自治体は少ないということの意味を県民にわかってもらうことが必要

ネクストステップ（東京オリンピック後の施策）が具体化すると、他の国、自治体にはない確固としたロードマップができるのではないかと

どうやってPRしていくかというイメージ戦略が重要

地場の中小企業の資金的、人的支援に合わせて、県外から技術や研究の取り込みができて、山梨に行けば何とかなるといところが実現できればよい

山梨の課題に対して、山梨の資源を活用したまちづくりをしていく戦略が重要
燃料電池関連産業を増やしたいのか、CO2フリーを目標とするのか、何もかもやろうとするとゴールが見えないのではないかと

太陽光など不安定な電気が増えたときに、どうやってリカバーするのかというのが一番の問題であり、それを解決するために水素に期待したい

太陽光の電気をだれが水素に変えて、いくらで売れるのか、ということが課題
FIT制度のように、水素を何らかの補助で高く買うといった制度設計が必要であることを、提言という形でロードマップの中に入れてもいいのではないかと
CO2フリー水素への期待が高まってきているので、できるだけ早く、どこに課題があるのかということを見つけながら検証していく姿勢が大事

エネルギーセキュリティとか産業振興も必要であるが、CO2の問題は避けられず、2050年に向かって山梨がやるということに意義が出てくる